

A 特別活動における育成をめざす「資質・能力」

育成をめざす「資質・能力」

- ◎ 特別活動とは学級・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成され、それぞれ構成の異なる集団での活動を通して、児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動のこと。また、協調性や異質なものを認め合う土壌を育むなど、生活集団・学習集団としての機能や、生徒指導・ガイダンスの機能もあわせ持つ。
- ◎ 特別活動における目標については、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って以下の通り整理を行った。
 - (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義を理解するとともに、様々な集団活動を実践 する上で必要となることの理解や技能を身に付ける
 - (2) 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく構築したりする力を養う
 - (3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を養う

※ 別添17-1「特別活動において育成を目指す資質・能力の整理」（別添資料P.98）及び別添17-2「特別活動における教育のイメージ」（別添資料P.99）より作成（1）知識・技能（2）思考力・判断力・表現力（3）学びに向かう力・人間性等

資質・能力を育成する学びの過程

特別活動における資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものです。学習過程の例としては、学級活動やホームルーム活動においては、「問題の発見・確認」「解決方法の話合い」「解決方法の決定」「決めたことの実践」「振り返り」等の学習過程を示しています。

特別活動においては、集団活動の中で多くの児童生徒が役割を経験することが重要です。役割を果たす課程の中で、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力を育成することにつながります。



各学校で考えてみましょう

▶ 別添17-1「特別活動において育成を目指す資質・能力の整理」を読んで具体的な単元目標の設定をしてみましょう。

B 特別活動における「見方・考え方」

「見方・考え方」

特別活動における「見方・考え方」は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとして、以下のように整理されています。

【特別活動における見方・考え方】～集団や社会の形成者としての見方・考え方～
各教科等における「見方・考え方」を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること

特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、より良い集団や学校生活をめざして様々な行われる活動の総体と言えます。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていることとなります。

また、実生活の課題を解決するために互いの良さや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあるということもできます。

なお、学びの過程において困難さを感じる児童・生徒への対応も必要です。

◇ 指導の工夫、手立ての例については、こちらまで 

[クリック](#)



各学校で考えてみましょう

- ▶ 「学級活動」「児童・生徒会活動」「クラブ活動」「学校行事」などの特別活動で育まれた力と、各教科等で育まれた力はそれぞれどのような場面で生かされているのか考えてみましょう。
- ▶ また、特別活動で育まれた力が、社会に出た後の様々な集団や人間関係にどのように生かされるか考えてみましょう。

C 特別活動における教育内容の改善・充実

学級・ホームルーム活動の改善の方向性

特別活動で育成をめざす資質・能力の三つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化しています。

改訂前

内容構成の整理

小学校

◆学級活動

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

中学校

◆学級活動

- (1) 学級や学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

高等学校

◆ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校の生活づくり
- (2) 適応と成長及び健康安全
- (3) 学業と進路

改訂後

小・中・高等学校を通じて目指す資質・能力の観点から、以下のように系統性が明確になるよう構造を整理。

(1)学級(ホームルーム)や学校における集団生活の創造、参画

⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成（集団決定）とそれに基づく実践を大事にする活動。

(2)一人ひとりの適応や成長及び健康安全な生活の実現

⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自立等に関わる内容であり、一人ひとりの理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動。

(3)一人ひとりのキャリア形成と実現

⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり一人ひとりの主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。